

《担当者名》○武田涼子 r-takeda@hoku-iryo-u.ac.jp 大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp 岩部達也 iwabe@hoku-iryo-u.ac.jp 小島悟 鈴木英樹 吉田晋 高橋尚明 泉唯史 佐々木祐二 澤田篤史 長谷川純子 鈴木伸弥 中村宅雄 山根裕司 佐藤一成 多田菊代 只石朋仁 河治勇人

【概要】

これまでに学習した専門知識および臨床実習における経験をもとに、特に理学療法評価、理学療法プログラムの立案と実施、理学療法実施後の再評価および報告、理学療法プログラムの追加変更の主眼をおいた実習を行い、実際の医療機関での症例担当を通じて総合的な理学療法のプロセスを経験する。さらに担当症例のレジюме作成や報告、チーム医療体制の経験・情報交換などを行うことで、医療専門職種としての総合的な役割を理解する。

【学修目標】

基本的理学療法をある程度の助言・指導のもとに行えるために、実際の対象者に対し、評価や治療を実施する機会をできるだけ多く経験し、理学療法士として必要な基本的評価・治療スキルを向上させる。

1. カルテや他部門から必要な情報を選択でき、また不足する情報を補うために患者本人や家族、他部門のスタッフなどから聴取することができる。
2. 病状や疾患を考慮して適切な検査・測定項目を選択することができる。
3. 基本的な検査・測定を正確に実施することができる。
4. 指導者の助言のもと一般情報、検査・測定結果を統合的に解釈することができる。
5. 指導者の助言のもと問題点を抽出し、参加レベルの主目標およびそれを実現するための活動レベル、機能・構造レベルの副目標を設定することができる。
6. 指導者の助言のもとEBMや患者背景を考慮した適切な理学療法プログラムを立案することができる。
7. 基本的な理学療法を実施できる。
8. 実施した内容、結果、評価などについて、専門用語を使用し簡潔で客観的な表現を用いて記録できる。
9. 症例を担当して得られた知見について口頭および文書によって報告することができる。
10. 指導者の助言のもと症状や治療成果など経過に合わせて適切に治療プログラムやゴールを変更することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	オリエンテーション	・臨床実習の日程と進め方について ・臨床実習の課題と提出方法について ・臨床実習の評価方法について	武田涼子 大須田祐亮 岩部達也
	臨地実習	医療機関における臨床実習を通じて基本的理学療法技術を身につける	臨床実習指導者
	客観的臨床能力試験（OSCE）	総合臨床実習終了後の技術面の客観的評価を行う	全担当教員
	学内報告会	臨床実習で経験した内容をもとに、実習において成長したと感じる点や今後の課題について、および臨床実習で得た情報をもとに臨床推論の過程について報告書を作成し、報告会で情報を共有し学びを深める	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習日誌20%、症例ノート20% 報告書20%、客観的臨床能力試験40%で評価する。

【備考】

「臨床実習の手引き」を配布する。

【学修の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、準備をしておくこと。実習先の施設の特性（病期や主な対象疾患など）について事前に調べ、必要な知識、技術の整理をしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(DP2) 最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する

専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を实践できる能力を身につけている。